

国立図書館短期大学史：図書館学・文献情報学・図書館情報学への展開過程

著者	吉田 右子
著者別名	YOSHIDA Yuko
雑誌名	日本図書館文化史研究会 2016年度研究集会・会員総会予稿集
ページ	9-12
発行年	2016
URL	http://hdl.handle.net/2241/00144050

国立図書館短期大学史

—図書館学・文献情報学・図書館情報学への展開過程—

吉田右子（筑波大学図書館情報メディア系, yyoshida@slis.tsukuba.ac.jp）

日本初の図書館学の専門課程を持つ大学として設置された国立図書館短期大学の創設から閉学までを、機関資料および大学課程設置審査書類等の歴史資料に基づき検証する。分析にあたり(1)創設当初からの昇格運動、(2)文献情報学科増設による改組、(3)図書館情報大学構想の具現化に焦点を当て、図書館短期大学の目指した方向性を明らかにした。さらに図書館短期大学と図書館情報学の展開と重ね合わせることによって、日本の図書館情報学史における図書館短期大学の位置付けを特定することを試みた。

1. はじめに

本研究は日本初の図書館学の専門課程を持つ大学として設立された国立図書館短期大学の創設から閉学までを、歴史資料に基づき検証するものである。『図書館短期大学史一十七年の歩み—』において、閉学時の学長松田智雄は、図書館短期大学は「わが国唯一の単純で完結的な専門大学であった。設置形態は、国立短期大学であったが、その教育内容は、極めて高い密度を備え、およそこの設置形態においては、驚異に値いするほどに豊富な学科目を網羅していた……その教育は、完結的な総合性を備えていた」と述べている¹⁾。本研究では(1)創設当初からの昇格運動、(2)文献情報学科増設による改組、(3)図書館情報大学構想の具現化に焦点を当て、図書館短期大学の目指した方向性を明らかにする。さらに図書館短期大学と図書館情報学の展開と重ね合わせることによって、日本の図書館情報学史における図書館短期大学の位置付けを特定することを試みる。

研究方法としては、図書館短期大学の機関資料および文部省に提出された大学課程設置審査書類等の歴史資料を収集し分析する。

2. 国立図書館短期大学史

2.1 図書館短期大学前史

前身校は、文部省図書館員教習所・文部省図書館講習所(1921年～1945年)、帝国図書館(国

立図書館、文部省)附属図書館職員養成所(1947年～1965年)、本研究が対象とする国立図書館短期大学(1964年～1981年)となる。後継機関は国立図書館情報大学(1979年～2004年)である。

1950年に制定された図書館法は司書を大学卒業者と定めていたが、図書館職員養成所は大学に昇格予定の暫定的機関とみなされ、その卒業者は特例として司書資格が認められた。図書館界は図書館法制定直後に司書養成機関に関わる大学の設置運動に着手した。その狙いは高度な図書館員養成とその基盤となる図書館学の学問的レベルの引き上げにあった。1954年に日本図書館協会に図書館員養成に関する委員会が設置された。1959年に設立された日本図書館協会教育部会は図書館学教育のレベル向上を目的として活動し、図書館養成所における大学昇格運動と連携関係を保持した。その後も養成所昇格問題は日本図書館協会ですたび取り上げられ、図書館法における司書資格との矛盾や制度面での脆弱さが指摘された。1962年に協会は「図書館学教育の改善刷新に関する陳情」を文部省に提出すると共に、「文部省図書館職員養成所の短期大学昇格について」の要望書を作成し、図書館学教育改善委員会委員長深川恒喜、図書館職員養成所所長伊東正勝が中心となって国会への陳情が行なわれた。1963年の総会では「図書館職員養成所の大学昇格を

促進するための委員会」の設置を議決し大学昇格運動は最終局面を迎えた。文部省において用地の確保が取りはからわれ大蔵省の予算措置、大学設置審議会の審査国会審議を経て、1964年4月からの図書館短期大学の設置が認められた。

2.2 国立図書館短期大学の設立

文部省図書館職員養成所の大学昇格に向けた図書館界と図書館職員養成所の集中的な運動が実を結び、1964年4月に国立図書館短期大学が設置された。定員は図書館科が80名、別科（特別養成課程）が40名であった。科学技術の進展は学術文献資料の増加をとめない、その収集、整理、保存に携わる高度な知識と技術への社会的要請が高まったことを背景に、図書館学の研究と図書館経営の中核となる専門職員の教育が設置の理由であった。専門科目は図書館学基礎、図書館資料関係、資料整理関係等の科目群から構成された。

館種別にみた就職先は多い順に専門図書館（官庁・民間団体）、大学図書館、公共図書館、学校図書館の順であり、同時代の図書館界の需要を反映している。

1970年11月から1971年2月には学生運動が激化した。学生自治会は大学当局の管理体制を激しく批判し、学生側の抵抗は授業ボイコット、学内デモ、全学ストライキ、バリケード構築へと進行した。1971年2月20日から21日にかけて大学当局との緊張は極限に達し、学生集会に関わる学生と教員の対立が膠着状態となり、最終的に事態沈静化のために警官隊が導入された。図書館短期大学の学生運動は単に一組織の問題ではなく図書館界の専門職養成をめぐる問題だとして、日本図書館協会は評議員会で取り上げ議論を行なった。

2.3 文献情報学科の設置

1971年4月図書館学科は、図書館学科（定員80名）文献情報学科（定員40名）に分離・改組された。文献情報の収集、整理、提供に関わる機械による効率的な処理のために、文献情報活動を担う専門職員の要請が社会的に望ま

れるようになったことが学科新設の理由であった。育成人材としては「アシスタント・ドキュメンタリスト」が示され、専門科目はドキュメンテーション総論、図書館学、情報処理技術論、情報利用法の科目群から構成された。

2.4 四年制大学の構想

図書館界、養成所から大学への昇格運動において図書館界の運動の主旨は図書館職員養成のレベルを引き上げるための基盤となる図書館学の向上にあり、短期大学ではその目的が達せられないと主張した。しかしながら最終的には各種学校から四年制大学への昇格に伴う障壁を乗り越えることはできなかった。図書館学を専門領域として教育・研究を行う四年制大学を維持するだけの研究者を集めることが困難であったからである。慶應義塾大学文学研究科に図書館・情報学専攻の博士課程が設置され、日本での図書館情報学研究者養成が本格的に開始されるのは1975年であり、養成所の大学昇格運動の時期とはタイムラグがあった。図書館短期大学は開学当初から四年制大学への昇格を目指した。

1967年に図書館短期大学内に四年制大学昇格準備のための特別委員会が設立され、本格的な準備が開始された。同年9月に筑波学園都市計画の移転予定機関として図書館短期大学の名前が挙げられ、四年制大学への昇格は筑波への移転と合わせて進められることとなった。移転をめぐる司書養成が情報処理技術者養成へと変質することへの懸念が一部の学生から強く示された。

1973年に出された『図書館・情報学にかかる高等教育機関のあり方について（中間報告）』は、図書館学科と文献情報学科の2学科構成を基本とし、大学院と短期大学を設置する計画となっていた。同時期に日本図書館協会図書館学教育部会図書館学教育基準委員会から司書のグレード制の提案がなされ、現職図書館職員からの強い反対を受けていた。中間報告で短期大学レベル、学部レベル、大学院レベルの司書養成が示されたものの、以後の計画においてはグレード制の提案はなされなかった。1977年に

は図書館短期大学内に図書館大学（仮称）創設準備室が開設された。1978年に発表された報告書『図書館大学（仮称）の構想について』では、伝統的な図書館学と情報処理技術中心の情報処理教育を中心とする文献情報学から脱却が強調された。1979年『図書館情報大学の創設準備について-まとめ-』で、新設される四年制大学の全体像が示された。

1979年3月国立学校設置法の改正により図書館情報大学の設置が決定し、同年10月1日に図書館情報大学が開学し1980年4月1日から学生を受入れた。入学定員120名、3年次編入学入学定員20名、図書館情報学専攻科入学定員30名であった。設置目的において図書館から情報センターへの移行が強調され、養成人材は基幹図書館職員及び情報処理専門職員と表現された。

3. 考察

歴史資料の分析から明らかになった図書館短期大学の特徴を考察する。

(1) 図書館短期大学は設置当初から四年制大学への昇格があらかじめ組み入れられた組織であった。

図書館関係者は図書館職員養成所の昇格の際、短期大学の設置を司書の位置付けを低めるものであるとして反対し、四年制大学としての設置を強く要望した。しかしながら1960年代前半期の図書館界は、図書館学専門の四年制大学を設置するだけの研究者の層を持たなかったため、短期大学として設置される結果となった。そのため図書館短期大学の設置審査では、設置者に対する留意事項の中に四年制大学への拡張が書き込まれた。

(2) 文献情報学科設置による改組

1971年に増設された文献情報学科は科学情報／文献の生産から利用にいたるプロセスを対象とする専門分野であるドキュメンテーションの教育と研究を行うことを目的とした。1960年代までは文献単位での情報管理を主な研究対象としていたドキュメンテーションは、1970年代からコンピュータを用いた情報管理

へと移行した。文献情報学科が設立されたのは、短期大学設立後7年後であり、短期大学は組織としての折り返し地点で、社会的要請に応じて科学技術情報処理にかかわる領域の研究を強化するとともに、情報処理にかかわる人材養成を軌道に乗せた。

(3) 図書館情報学専門大学の構想

文献情報学科が設置され、学術情報を操作対象とする工学的発想が図書館短期大学の教育と研究に積極的に取り込まれたことは、設置予定の四年制大学の方向付けに影響を与えた。同時期の大学図書館と専門図書館の現場では、学術情報の生産、伝達、処理、蓄積、検索、提供プロセスに関わる高度な情報処理技術が必要とされ、現場では学術情報処理が主たる業務となっていた。資料組織化を中心とする伝統的な図書館学から、学術情報を高速に処理し学術活動を総合的に支援する図書館情報学への転換が必要であった。改組後のあらたな四年制大学は伝統的な図書館学と、情報の多様な側面を研究する情報学との融合を目指す機関として構想された。

図書館短期大学の存続期間は図書館学から図書館情報学への移行期であった。その節目の一つが1971年の文献情報学科の増設であり、図書館短期大学は図書館学専門の大学から図書館学研究者とドキュメンテーション研究者から構成される複合領域を対象とする教育機関へと発展した。両学科の研究者は人文科学・社会科学・自然科学の方法論を情報と文献の取り扱いに総合的に適用する図書館情報学の原型となる研究を行なうことによって、図書館情報学という特定の学問領域に係る四年制単科大学を維持するために必要な基盤を図書館短期大学の閉学期にかけて固め、図書館情報大学設置時の図書館短期大学はすでに図書館情報学の拠点となっていた。

図書館情報大学には図書館短期大学の教員に加えて新たに情報学の研究者が招聘された。科学技術情報の流通・提供に関わる専門職の養成は新設四年制大学の最優先課題であり、図書

館情報大学に新しく加わった教員の最大の集団は情報工学系の研究者であった。つまり図書館情報大学は図書館情報学の教員と情報学や情報工学および隣接領域からの教員によって教授陣が構成されていたのであり、学問分野としては図書館短期大学がすでにその基礎を形成していた図書館情報学と情報学／情報工学を統合したものであった。図書館学と情報学の融合が困難であったように、図書館情報学と情報学／情報工学の融合もまた困難であり一つの組織の中に異なる複数の学問領域が併存することになった。その総体は当然のことながら図書館情報学よりは範囲が広いものであった。

4. おわりに

図書館短期大学は図書館界と図書館員養成所の協働によって実現した日本では初めての図書館学専門の単科大学であった。短期大学設

置後、両者の距離は次第に離れた。図書館界は司書講習科目の改正に運動の中心を移し、図書館短期大学は情報処理に関わる高度な専門職養成の要請に答えるべく組織改革に取り組んだ。ポスト図書館短期大学となる養成機関のターゲットは、伝統的な公立図書館職員の養成から高度な情報処理技術を持つ専門職員の養成へと完全に焦点を移行していたのである。

【参照文献】

- (1) 図書館短期大学史編さん委員会『図書館短期大学史—十七年の歩み—』図書館短期大学, 1981, n. p.
- (2) 根本彰監修、中村百合子／松本直樹／三浦太郎／吉田右子編著『図書館情報学教育の戦後史—資料が語る専門職養成制度の展開』ミネルヴァ書房, 2015, p. 987-1025.

表 1. 国立図書館短期大学関連年表

年	国立図書館短期大学	図書館界の動き
1962年	文部省図書館職員養成所同窓会「文部省図書館職員養成所の大学昇格に関する陳情」を文部大臣に提出	日本図書館協会, 全国大会の決議(図書館職員養成所の大学昇格推進)に基づき「図書館学教育の改善に関する陳情書」を文部大臣に提出
1963年		日本図書館協会 図書館短大の四年制大学への昇格を決議
1964年	国立図書館短期大学図書館科設置	
1967年	閣議で「筑波研究学園都市計画」了承。移転予定機関として図書館短期大学教授会が文部省に筑波研究学園都市計画への協力・参画を申し出	慶應義塾大学大学院文学研究科図書館・情報学専攻修士課程設置
1968年		慶應義塾大学文学部図書館学科を図書館・情報学科に改称
1971年	国立図書館短期大学文献情報学科増設	
1972年	「図書館・情報学高等教育機関に関する調査会」設置(筑波研究学園都市移転協議組織)／「図書館短期大学将来計画委員会」設置	日本図書館協会・図書館学教育部会 図書館学教育基準委員会 司書講習の廃止や司書のグレード制を盛り込んだ「図書館学教育改善試案」提起
1973年	『図書館・情報学にかかる高等教育機関のあり方について(中間報告)』(司書のグレード制示唆)	国立大学図書館協議会、文部省学術審議会特別委員会学術情報分科会、国立大学協会、図書館情報専門職についての要望
1974年	『図書館・情報学にかかる高等教育機関のあり方について(報告)昭和49年4月』発表	
1975年	「図書館大学(仮称)構想具体化協議会」	慶應義塾大学大学院文学研究科図書館・情報学専攻博士課程設置
1977年	文部大臣裁定により「図書館大学(仮称)創設準備室」開設	大学基準協会「図書館・情報学教育基準」「図書館・情報学教育の実施方法について(案)」決定
1979年	図書館情報大学創設準備委員会『図書館情報大学の創設準備について—まとめ—』	
1979年	国立図書館情報大学設置	
1981年	国立図書館短期大学閉校	

出典:『図書館情報学教育の戦後史—資料が語る専門職養成制度の展開』所収の年表²⁾を参考に筆者作成